

目次

[10月6日午前](#)

[10月6日午後](#)

[10月7日午前](#)

[10月7日午後](#)

[10月8日午前](#)

[10月8日午後](#)

[10月6日 ポスター](#)

[10月7日 ポスター](#)

[10月8日 ポスター](#)

表 1: 10月6日午前

時間	番号	題目	著者
10月	6日		
午前1	A会場	地震の理論・解析法	
	座長	宮澤理稔・原 辰彦	
9:00	A001	長周期実体波を用いたモーメント解放の時空間分布推定	° 原 辰彦 (建築研・国際地震工学センター)
9:12	A002	KM20-Langevin方程式理論に基づく深部低周波地震の波動特性の抽出と平均散逸スペクトル	° 武尾 実・植田寛子 (東大・地震研)・松浦真也・岡部靖憲 (東大・情報理工学)
9:24	A003	共鳴体のある系の伝達関数	° 武井康子 (東大地震研)
9:36	A004	短波長不均質が地震波に及ぼす影響 V: 多変量 AR モデルにもとづく散乱波の解析続報	° 西澤 修 (産総研), 北川源四郎 (統数研)
9:48	A005	ランダム不均質構造における表面波のエンベロープ合成: モード総和法に基づく一次散乱モデル	° 前田拓人・佐藤春夫・西村太志 (東北大理)

10:00	A006	輻射伝達理論とマルコフ近似の融合に基づく波形エンベロープ導出法：短波長スペクトルに富む2次元ランダム媒質の場合	° 佐藤春夫（東北大理）・Fehler, Mike (LANL, USA)・齊藤竜彦（東北大理）
10:12	A007	人工地震探査のための準円筒座標系2.5次元波動モデリング	° 竹中博士・田中宏樹（九大理）・岡元太郎（東工大理）・Brian L.N. Kennett（オーストラリア国立大）
10:24	A008	グリッドモデルを用いた走時トモグラフィにおける内挿関数の考察	° 宮澤理稔(京大防災研)・加藤護(京大人環)
10:36	A009	震源決定手法に関する2-3の問題	° 松本 久（元気象庁）
10月	6日		
午前2	A会場	強震動予測：現状と将来展望	
	座長	山中浩明・神野達夫	
11:02	A010*	確率論的地震動予測地図作成の現状と課題	° 奥村俊彦（防災科研）
11:17	A011	確率論的地震動予測地図の試作版（地域限定-北日本）について	地震調査委員会 長期評価部会・強震動評価部会 ° 東貞成（文部科学省地震・防災研究課）
11:29	A012	強震観測記録の平均的特性を反映した距離減衰式の導出	° 神野達夫（広島大学）・成田章（三菱スペースソフトウェア）・森川信之・藤原広行（防災科研）・福島美光（清水建設）
11:41	A013	面的地震動強度評価関数について	° 藤原広行・先名重樹（防災科研）
11:53	A014	地表断層ごく近傍における強震動特性	° 久田嘉章（工学院大学建築学科）
10月	6日		
午前	B会場	地震発生の物理	
	座長	福山英一・加藤尚之・青地秀雄	
9:00	B001	紀伊半島低周波微動域周辺での電気伝導度構造	° 笠谷貴史(JAMSTEC)・山口覚・藤田清士(神戸大)・大志万直人(京大防災研)・上嶋誠・鍵山恒臣・歌田久司(東大地震研)・後藤忠徳・三ヶ田均・末広潔(JAMSTEC)

9:12	B002	スラブ内地震がプレート境界の地震サイクルに及ぼす影響	◦ 加藤尚之 (東大地震研)
9:24	B003	地震の初期破壊に対する温度・流体圧・空隙率の非線形な相互作用の効果	◦ 鈴木岳人・山下輝夫 (東大地震研)
9:36	B004	FEMによる地殻の非弾性変形のモデル化 (I) -非線形流動と塑性の共存-	◦ 柄谷和輝 (CRC) ・芝崎文一郎 (建築研) ・田中秀実 (東大理) ・飯尾能久 (京大・防災研) ・奥田洋司 (東大・人工物センター)
9:48	B005	破砕帯とアスペリティーとからなる断層模型	◦ 山本清彦・矢部康男・佐藤凡子 (東北大学・院・理)
10:00	B006	高速摩擦における摩擦係数, 及び D_c の変化の数値シミュレーション	◦ 里見和人・城野信一 (名大環境)
10:12	B007	断層破砕帯の生成過程: 断層面外破損のモデル化とシミュレーション	◦ 安藤亮輔・山下輝夫 (東大地震研)
10:24		休憩	
10:36	B008	Consequences of fixed rupture velocity on shear dynamic rupture simulations	◦ Dalguer Luis A., Kojiro Irikura (DPRI Kyoto Univ.)
10:48	B009	Dynamic Rupture Simulation using Staggered-grid Velocity-stress and Standard Displacement FDM Formulations.	◦ OPRASAL Ivo (DPRI Kyoto Univ and ETH Zurich), DALGUER Luis Angel, IRIKURA Kojiro (DPRI Kyoto Univ.)
11:00	B010	Slip Development and Instability on a Nonuniformly Loaded Fault with Power-Law Slip-Weakening	James R. RICE (Dep. Earth Planet. Sci. and Div. of Eng. App. Sci., Harvard Univ.), ◦ Koji UENISHI (Research Center for Urban Safety and Security, Kobe Univ.)
11:12	B011	Numerical Study on Multi-Scaling Earthquake Rupture	◦ Hideo AOCHI (IRSN, France) and Satoshi IDE (EPS, Univ. Tokyo)
11:24	B012	地震の動的破壊過程と断層周辺の応力場-鳥取県西部地震の場合-	◦ 福山英一 (防災科研)
11:36	B013	D_c ESTIMATED DIRECTLY FROM NEAR-FAULT STRONG GROUND MOTIONS AND INFERRED FROM WAVEFORM INVERSION	K. B. OLSEN (UCSB), E. FUKUYAMA (NIED), AND ◦ T. MIKUMO (UNAM)
11:48	B014	内陸地震の発生過程のモデル化 (1) -列島規模の枠組みについて-	◦ 飯尾能久 (京大防災研) ・鷺谷 威 (名古屋大学) ・小林洋二 (筑波大学)

10月	6日		
午前	C会場	地震一般・地震予知	
	座長	西村太志・神定健二・梅田康弘	
9:00	C001	2000年三宅島噴火活動の初期の地殻変動に伴う地磁気変化	° 上田英樹・松本拓己・藤田英輔・鶴川元雄・山本英二（防災科研）・笹井洋一（東京都）・メイラノ イルワン・木股文昭（名古屋大学）
9:12	C002	マグマ性流体の発泡効果とクラックの伸展	° 西村太志（東北大・理）
9:24	C003	長周期大気音波の分散測定	° 西田究・深尾良夫・綿田辰吾（東大地震研）・小林直樹（東工大）・須田直樹（広島大）・名和一成（産総研）・田平誠（愛教大）
9:36	C004	高次弾性の効果と非線形波動	° 大内徹（神戸大都市安全）
9:48	C005	神岡におけるレーザー伸縮計（歪地震計）と広帯域地震計の比較観測	° 森井亙（京大防災研）・新谷昌人（東大地震研）・赤松純平（京大防災研）・竹本修三・百瀬秀夫（京大理）・市川信夫・尾上謙介（京大防災研）
10:00	C006	JISNETデータを用いたグリッドサーチ法による震源決定 -インドネシアの地震・津波情報発表のために-	° 神定健二・古館友通（気象庁）・大滝寿樹（産総研）・井上公（防災科技研）・沢田宗久（国際協力事業団）・Ibnu Purwana（インドネシア気象庁）
10:12	C007	MjとMwの関係について -最近の地震データに基づく検討-	° 司宏俊（（株）構造計画研究所）
10:24		休憩	
10:36	C008	南海地震の前の井戸水の減少メカニズムについて	° 梅田康弘・橋本 学・尾上謙介・重富國宏・浅田照行・細善信・近藤和男（京大防災研）
10:48	C009	高知県佐賀町における地下水位のアーレー観測	° 浅田照行・重富國宏・梅田康弘・辰己賢一（京大・防災研）・木村昌三・川谷和夫（高知大・地震観）・大村誠（高知女子大）
11:00	C010	安政・昭和南海地震前の井水涸れ一史料及び現地聞き取り調査による一	° 重富國宏・梅田康弘・尾上謙介・浅田照行・細善信（京大・防災研）
11:12	C011	和歌山県印南町における既設井戸の水位変化について	° 尾上謙介・梅田康弘・重富國宏・細 善信・浅田照行・藤田安良（京大防災研）

11:24	C012	b 値変化と前震を用いた確率予測について-パラメータ独立性の考察- (その2)	° 井元政二郎 (防災科研)
11:36	C013	犬の苦情件数の増加と地震の関連	° 嶋村清志 (滋賀県今津保健所)
11:48	C014	1993年北海道南西沖地震 (M7.8) の宏観異常現象と衛星画像と気温変化	° 宇田進一 (ネットワーク・地球)

表 2: 10月6日午後

時間	番号	題目	著者
10月	6日		
午後	A会場	強震動予測：現状と将来展望	
	座長	青井 真・川辺秀憲・岩田知孝・瀬藤一起	
13:00	A015*	活断層情報と強震動予測	° 杉山雄一・関口春子 (産総研・活断層研究センター)
13:15	A016	内陸地震のアスペリティ予測に向けた地形・地質情報の有効性?2000年鳥取県西部地震を例にして--	° 青柳恭平・阿部信太郎・宮腰勝義・井上大栄 (電力中央研究所)
13:27	A017	「大都市圏地殻構造調査研究」の強震動予測へ役割	° 平田直 (東大地震研)、大都市圏地殻構造調査研究グループ
13:39	A018*	地震動予測地図のためのサイト増幅の評価	° 翠川三郎 (東工大・総理工)
13:54	A019	最大値指標のサイト特性と地盤構造の関係?サイト増幅の簡便な予測は可能か?--	° 川瀬博 (九大人間環境)・松尾秀典 (日立システム&サービス)
14:06	A020	地震動予測地図作成のための深部地下構造モデルの検討方法	° 森野道夫・篠原秀明・濱田俊介 (応用地質)・藤原広行・早川譲 (防災科研)
14:18	A021	統計的グリーン関数の高精度化に向けた検討	° 川辺秀憲・釜江克宏 (京大原子炉実験所)
14:30	A022	強震動予測のための地盤構造のモデル化	布村明彦 (内閣府現国交省)・° 横田崇 (気象庁)・斎藤誠 (内閣府)・富田浩之 (内閣府現国交)

			省)・上総周平(内閣府)・宮川康平(内閣府)・稲垣賢亮(応用地質)・引間和人(応用地質)・増田徹(応用地質)
14:42	A023	地震動シミュレーションに海は考慮すべきか? (3) 深さ数十mの浅い海の影響	° 畑山 健(消防研究所)
14:54	A024	活断層沿いのシナリオ地震による地震動予測地図作成手法の検討	° 石井 透・藤原広行・早川 讓(防災科研)・松島信一・早川 崇・佐藤俊明(大崎総研)・篠原秀明(応用地質)
15:06		休憩	
15:15	A025	3次元グリーン関数を用いた震源過程の解析? 兵庫県南部地震の再解析--	° 瀨瀬一起(東大地震研)・大野大地(茨城大理)・池上泰史(CRC solutions)
15:27	A026	広帯域強震動シミュレーションを目指した震源の周波数依存不均質特性の推定	° 三宅弘恵(東大地震研)・Gregory C. Beroza (Dept. Geophysics, Stanford University)・岩田知孝(京大防災研)
15:39	A027	やや短周期域の震源モデル構築を目指して (5) --2000年鳥取県西部地震における震源モデルの特性化--	° 宮腰 研・長 郁夫(地盤研究財団)・岩田知孝(京大防災研)・関口春子(産総研)
15:51	A028	横ずれ断層による内陸地震の短周期レベルと地震モーメントとの関係から推定される平均応力降下量とアスペリティの実効応力	° 壇一男・武藤尊彦・宮腰淳一・渡辺基史(大崎総研)
16:03	A029	広帯域強震動予測のための2段階ハイブリッド法	° 渡辺基史・佐藤俊明(大崎総研)・藤原広行・青井真(防災科研)
16:15	A030	海溝型巨大地震時の強震動予測の高精度化	° 釜江克宏・川辺秀憲(京大原子炉実験所)
16:27	A031*	シナリオ地震の強震動予測のためのレシピ	° 入倉孝次郎(京大防災研)・三宅弘恵(東大地震研)・岩田知孝(京大防災研)・釜江克宏(京大原子炉)・川辺秀憲(京大原子炉)・Luis Angel Dalguer(京大防災研)
16:42		総合討論	
10月	6日		
午後	B会場	地震発生の物理	

	座長	熊谷博之・森谷祐一・水野高志・井出 哲	
13:00	B015	マグマ性流体の流れによって励起される長周期振動現象に関するモデル実験	° 熊谷一郎・高嶋晋一郎・栗田敬 (東大地震研)
13:12	B016	エクアドル・トゥングラワ火山の低周波地震から推定される火道内プロセス	Indira Molina (Instituto Geofisico, EPN, Ecuador), ° 熊谷博之 (防災科研), Hugo Yepes (Instituto Geofisico, EPN, Ecuador)
13:24	B017	東海地域の推定固着域における地球潮汐の地震トリガー作用	° 田中佐千子・佐藤春夫 (東北大理)・松村正三 (防災科研)・大竹政和 (東北大)
13:36	B018	相似地震解析による宮城県沖地震アスペリティ周辺の準静的すべり	° 内田直希・長谷川昭 (東北大・理)・松澤暢・五十嵐俊博 (東大・地震研)
13:48	B019	野島断層における繰り返し注水実験 ?断層回復過程および誘発地震の研究--	野島断層注水実験グループ (° 西上欽也、京大防災研)
14:00	B020	水圧破碎時に誘発されるマルチプレットの波形観察に基づく地下き裂面の動的挙動推定-震源分布方向とせん断表面力方向との関係-	° 熊野裕介・森谷祐一・新妻弘明 (東北大学院環境)・Roy Baria (GEIE)
14:12	B021	界面動電現象による野島断層回復過程のモニター	° 村上英記 (高知大理)・橋本武志 (北大理)・大志万直人 (京大防災研)・山口 覚 (神戸大理)・吉村令慧 (京大防災研)
14:24	B022	ソルツフィールドにおける人工地熱貯留層造成のための水圧破碎に伴うAE・微小地震マルチプレットの解析	° 森谷祐一・新妻弘明 (東北大院環境), バリア・ロイ (GEIE)
14:36	B023	2000年鳥取県西部地震域における断層強度の推定	° 行竹洋平・飯尾能久・片尾浩・澁谷拓郎 (京大防災研)
14:48		休憩	
15:00	B024	内陸活断層の強度推定法に関する試案	° 桑原保人・伊藤久男・水野高志・今西和俊 (産総研)
15:12	B025	跡津川断層における極微小地震のメカニズム解の空間分布	° 今西和俊・伊藤久男・桑原保人・水野高志 (産総研)・加納靖之・柳谷俊・伊藤潔・和田博夫 (京大防災研)
15:24	B026	S波splittingの解析による跡津川断層系周辺の応力場	° 水野高志・伊藤久男・桑原保人・今西和俊 (産総研)
15:36	B027	ニュージーランドの広帯域地震観測網で決定した近地地震のモーメント	° 小菅正裕 (弘前大理工)・Terry Webb (IGNS, NZ)

		ントテンソル解	
15:48	B028	余震の応力降下量の空間変化 --2000年鳥取県西部地震余震域--	° 伊藤喜宏 (防災科研) ・小原一成 (防災科研) ・長谷川昭 (東北大・理) ・八木勇治 (建築研)
16:00	B029	Hi-net 1k sps データを用いた地震エネルギーの推定 2000年 鳥取県西部地震の余震活動について	° 井出哲 (東大・理・地惑) ・松原誠・小原一成 (防災科研)
16:12	B030	Scaling of Radiated Energy for Intermediate Depth Earthquakes	° James Mori ・金 亜伊 (京大防災研)
16:24	B031	2001年芸予地震の動的破壊過程のシミュレーション(2)	° 安田拓美 (東大地震研) ・宮武隆 (東大地震研) ・八木勇治 (建築研)
16:36	B032	1964年アラスカ地震(Mw9.2)の震源過程	° 村上理・菊地正幸・山中佳子 (東大地震研)
16:48	B033	測地及び遠地・近地波形データの同時インバージョンによる 1923年関東地震の震源過程	° 小林励司・瀬瀬一起 (東大地震研)
10月	6日		
午後	C会場	活断層と古地震・津波・学校教育と知識普及	
	座長	小村健太郎・松浦律子・佐竹健治・教越達也	
13:00	C015	活断層ドリリングによる断層破砕帯の構造と応力	° 小村健太郎(防災科研) ・池田隆司(北海道大) ・飯尾能久(京大防災研) ・松田達生(防災科研)
13:12	C016	牛伏寺断層周辺の活断層構造?活断層ドリリング及び電気・電磁気探査による結果--	° 松田達生・小村健太郎 (防災科研) ・池田隆司 (北海道大学) ・水落幸広 (住鋳コンサル)
13:24	C017	野島断層掘削コアのフィッシュントラック年代分析	° 山田隆二・松田達生・小村健太郎 (防災科研)
13:36	C018	福井県水月湖湖底堆積物の高分解能化学組成プロファイルによる古地震イベントの解読	° 勝田長貴・高野雅夫・戸上昭司 (名古屋大・環境) ・川上紳一 (岐阜大・教育) ・福澤仁之 (東京都立大・地理) ・熊澤峰夫 (東濃地科学センター)
13:48	C019	多賀火山の古地磁気方位からみた丹那断層周辺の広範囲な横ずれ変形	° 木村治夫 (東大地震研) ・石川尚人 (京大人間・環境学) ・佐藤比呂志 (東大地震研)
14:00	C020	糸魚川?静岡構造線活断層系北部の平均すべり速度	° 松多信尚 (東大地震研) ・田力正好 (東大・院・理) ・河村知徳 (東大地震研) ・池田安隆 (東

			大・院・理)
14:12	C021	上下変位速度の時間的・空間的な変化からみた逆断層の長さ評価則の試案 -信濃川活褶曲帯における事例研究-	° 金 幸隆 (京都大学・理)
14:24	C022	高田平野東縁断層の活動履歴	° 渡辺満久 (東洋大) ・後藤秀昭 (福島大) ・澤 祥 (鶴岡高専)
14:36	C023	古代・中世の日本の全地震史料の校訂・電子化について	° 石橋克彦 (神戸大) ・小山真人 (静岡大) ・佐竹健治 (産総研) ・都司嘉宣 (東大) ・早川由紀夫 (群馬大) ・榎原雅治 (東大) ・笹本正治 (信州大) ・高橋昌明 (神戸大) ・田良島哲 (東博) ・藤田明良 (天理大) ・矢田俊文 (新潟大) ・安永尚志・原正一郎 (国文研)
14:48	C024	歴史地震の震源域位置および規模の系統的再検討?第5報--(弘化善光寺, 明和日向・豊後, 寛文日向灘の3地震と文久宮城沖の再考)	° 松浦律子 ((財)地震予知振興会) ・中村 操・唐鎌郁夫・茅野一郎 (防災情報サ)
15:00		休憩	
15:12	C025	1940年積丹半島沖地震の震源域? 海底調査と津波波形のインバージョンによる再検討--	° 佐竹健治・岡村行信・荒井晃作 (産総研)
15:24	C026	正平南海地震 (1361) の津波に襲われた土佐国香美郡田村下ノ庄の正興寺の所在について	° 都司嘉宣・行谷佑一 (東大地震研)
15:36	C027	1771年明和八重山地震津波の波源域	° 中村衛 (琉球大・理)
15:48	C028	寛政五年 (1793) 宮城県沖地震の詳細震度分布と津波の状況	° 行谷佑一・都司嘉宣 (東大地震研) ・上田和枝
16:00	C029	1944年東南海地震津波の応答曲線	° 阿部邦昭 (日歯大新潟短大)
16:12	C030	2003年1月22日メキシコ中部地震津波と周辺の津波活動	° 羽鳥徳太郎 (地震学会会員)
16:24	C031	'03/5/26宮城県沖地震直前の植物生体電位観測データ	° 斉藤好晴 (NECエンジニアリング)
16:36	C032	高校生の地震に関する意識調査? 神戸市の場合--	° 数越達也・高田洋祐・三好由貴・村松克哉・津田大地・山本貴也・阿野佑子・田中沙織・山内暁・桑本佳奈・告野麻希志 (須磨友が丘高)
16:48	C033	震動が伝わる現象としての地震教育	° 南島正重 (東京都立向丘高等学校)

表 3: 10月7日午前

時間	番号	題目	著者
10月	7日		
午前	A会場	地震予知—短期・直前予測 における学問的課題—	
	座長	東田進也・長尾年恭	
9:00		趣旨説明	° 石橋克彦（地震予知検討委員会）
9:10	A032*	大地震の加速すべり過程のモデル化—先行現象の多様性の解明に向けて—	° 芝崎文一郎（建築研）
9:35	A033*	電磁気学的な手法による地震発生直前予測研究の進展	° 服部克巳（千葉大海洋バイオ）・長尾年恭（東海大予知セン）
9:55	A034	地震発生前後数時間にわたる海外TV放送電波の伝搬異常 ---観測結果とメカニズムのモデルシミュレーション	° 鷹野敏明・坂井来人・宇治川智・日笠繁・長嶋郁生・有賀寛道・島倉信（千葉大自然科学）
10:07	A035	地殻変動に伴う励起電磁波パルスの検出とその波源位置表示システム	° 筒井稔・香川忠與（京都産業大）
10:19		休憩	
10:31	A036	地震性放射性ガス散逸と大気イオン生成過程	° 弘原海清・西橋政秀（岡山理科大学）
10:43	A037*	地震予知研究における水文学的・地球化学的手法の戦略的役割	° 小泉尚嗣・高橋 誠・松本則夫・佐藤 努・大谷 竜・北川有一（産総研・地質調査総合センター）
11:03	A038	M差則に注目した地震活動予測とその課題	° 山科健一郎（東大地震研）
11:15	A039*	三陸沖におけるプレート境界型大地震の短期予知の戦略と展望	° 松澤 暢（東大地震研）・内田直希（東北大理）
11:35	A040*	気象庁の東海地震短期直前予知戦略と新たな情報体系	° 上垣内修・東田進也（気象庁）

10月	7日		
午前	B会場	地震計測・処理システム・ 地盤構造・地盤震動	
	座長	高波鐵夫・飯田昌弘・盛川 仁	
9:00	B034	DVB衛星配信を利用したリアルタイム地震情報の配信と受信システム	° 山本俊六・堀内茂木・根岸弘明 (防災科研)・卜部 卓(東大地震研)
9:12	B035	リアルタイム地震情報の利活用の実証的調査・研究について	° 川上則明・川崎健生・山口耕作・柳川智明・西野哉誉・浅原裕・藤縄幸雄(リアルタイム)
9:24	B036	エアーガンによる膨大な制御地震波形データの信号抽出と地下構造探査 ー高次元時系列からの信号抽出ー	° 高波鐵夫(北大理)・北川源四郎(統数研)・桑野亜佐子(東北大理)・村井芳夫(北大理)・西村裕一(北大理)・島村英紀(北大理)
9:36	B037	リュツォ・ホルム湾域での広帯域地震計によるアレイ観測とAntarcticArray計画への貢献	° 金尾政紀・澁谷和雄(国立極地研・総合研究大学院大学)
9:48	B038	長期観測型海底地震計の開発とそれによる観測研究	° 金沢敏彦・塩原肇・山田知朗・篠原雅尚・望月公廣(東大地震研)
10:00	B039	経験的グリーン関数法による1993年釧路沖地震の釧路港の記録の再現	° 野津厚(港空研)
10:12	B040	入力波動場による、3次元地盤応答解析法	° 飯田昌弘(東大地震研)
10:24	B041	八戸市における微動アレイによる浅部S波速度構造の推定	° 坂尻 直巳(八戸工業大学)
10:36	B042	静岡県南部(相良町・御前崎町)のS波速度構造(その2)	° 津野靖士・吉川正隆・工藤一嘉(東大地震研)・植竹富一(東京電力)
10:48	B043	鳥取県日野Kik-net観測点周辺の微動アレイ観測による位相速度分散曲線	° 前田寿朗・倉内信幸(早大理工建築)・日比野浩・吉村智昭・内山泰生(大成建設技術センター)
11:00	B044	島根県松江平野における微動特性調査	° 足立正夫(米工高)・元木健太郎・瀬尾和大(東工大)
11:12	B045	3成分の微動アレイ観測に基づく表面波の位相速度の推定	° 盛川仁(東工大)
11:24	B046	SPAC法によって推定されたS波速度構造の火薬震源記録による精度検討	° 吉川正隆・工藤一嘉・津野靖士(東大地震研)

11:36	B047	S波バイブレータによる反射法地震探査ー千葉県印旛沼における基礎実験ー	° 稲崎 富士・倉橋 稔幸 (土木研)
11:48	B048	鴨川観測井を利用したVSP法速度構造調査	° 山水史生・笠原敬司 (防災科研) ・須田茂幸・川中卓 (地科研)
10月	7日		
午前	C会場	テクトニクス	
	座長	石川有三・橋本千尋・田中明子	
9:00	C034	関東・東海地方の経年的地殻変動場を説明するテクトニクス・モデル	° 宮下芳 (茨城大理) ・李建新 (測位衛星技術株) ・Kathamana VIJAYKUMAR (東海大海洋)
9:12	C035	新しい沈み込み帯の提案	° 石川有三 (気象研)
9:24	C036	東海地方下フィリピン海プレートの形状と2, 3の特徴	° 青木治三 ((財)地震予知振興会、東濃地震科学研)
9:36	C037	近畿地方周辺のGPS速度場とテクトニクス	° 西村 宗・橋本 学(京大防災研)
9:48	C038	紀伊半島西部地域の地震活動とテクトニクス	° 中村正夫・松波孝治 (京大防災研)
10:00	C039	近畿・四国地域の中央構造線付近の微小地震の分布	° 許斐直・松村一男・近藤和男 (京大防災研)
10:12	C040	東北日本前弧沈降の謎と造構性侵食	° 日置幸介 (国立天文台地球回転研究系)
10:24	C041	GPSデータのインバージョンから推定されたメキシコ沈み込み帯でのプレート間カップリングと'01~'02年スロースリップイベント	° 吉岡 祥一 (九大理) ・三雲 健・Vladimir Kostoglodov・Shri K. Singh (メキシコ自治大) ・Anthony R. Lowry・Kristine M. Larson (コロラド大)
10:36	C042	プレートの定常的沈み込みに伴う日本列島域の地殻内応力場	° 橋本千尋 (IFREE) ・松浦充宏 (東大・院・理)
10:48	C043	沈み込み帯における変位・重力の経年変化ー球対称粘弾性地球モデルを用いたシミュレーション	° 奥野淳一・大久保修平 (東大地震研) ・田中愛幸 (国土地理院)
11:00	C044	東アジアの変形場についてーGPSに基づく数値シミュレーションー	° 岩国真紀子・加藤照之・宮崎真一・孫文科 (東大地震研)
11:12	C045	プレート境界の流体力学的表現	° 高久真生 (東大地震研) ・深尾良夫 (東大地震研、IFREE)
11:24	C046	弾性ー粘弾性層構造媒質中の開口亀裂による内部応力場の時間変化	° 橋間昭徳・松浦充宏 (東大理)

11:36	C047	水曜海山カルデラ海底熱水域における熱放出	° 田中明子 (産総研・地質調査総合センター) ・浦辺徹郎 (東大・院・理)
11:48	C048	南極昭和基地周辺の日独航空機地球物理共同観測 (WEGASプロジェクト)	° 野木義史・渋谷和雄 (国立極地研究所)

表 4: 10月7日午後

時間	番号	題目	著者
10月	7日		
午後	A会場	地震活動	
	座長	浜田信生・勝俣 啓・青木 元・石原 靖	
13:00	A041	一元化震源と構造の地域性を考慮した震源との比較 (その1)	大井田 徹 (東濃地震科学研) ・° 山崎文人 (名大院・環境学)
13:12	A042	日本の内陸における b 値の時間変動	° 塚越芳樹・島崎邦彦 (東大地震研)
13:24	A043	内陸における地震活動度の定量的評価 第二報	° 板場智史・渡辺邦彦 (京大防災研) ・西田良平 (鳥取大工) ・野口竜也 (京大防災研)
13:36	A044	1952年十勝沖地震 (M8.2) の震源域の見直しについて	° 浜田信生 (気象研究所) ・鈴木保典 (地震予知総合研究振興会)
13:48	A045	応力テンソルインバージョン法によって推定された浦河沖地震活動域の主応力パターン	° 勝俣啓 (北大・理)
14:00	A046	岩手県沖プレート境界近傍における微小地震の精密震源分布	° 迫田浩司・岡田知己・長谷川昭 (東北大・理)
14:12	A047	栃木県足尾地方に発生した深部低周波地震群発活動	° 植田寛子・武尾実・萩原弘子 (東大地震研)
14:24	A048	浅間火山で発生する火山性地震の震源分布 - Double-Difference法による震源再決定 -	° 及川 純 (東大地震研) ・井田喜明 (姫路工大院)
14:36		休憩	

14:48	A049	防災科研 関東・東海地殻活動観測網とHi-net及び気象庁の震源データの比較(その2)	◦ 増子徳道・野口伸一(防災科研)
15:00	A050	関東地域の相似地震活動	◦ 木村尚紀(防災科研)・五十嵐俊博・平田直(東大地震研)・笠原敬司(防災科研)
15:12	A051	房総半島沖の非地震性すべりに伴う群発地震活動	◦ 鷺谷威(名大環境)
15:24	A052	東海地域推定固着域における強カップリング帯の存在とTectonic Force Balance	◦ 松村正三(防災科研)
15:36	A053	海底地震計観測による東海沖の地震活動ー気象庁一元化震源の再決定と2003年観測結果ー	◦ 青木元・山崎明・吉田康宏・石川有三(気象研)・阿部正雄・眞坂精一・竹内新(気象庁)
15:48	A054	跡津川断層系沿いの地震活動ー立山,白山付近における地震観測ー	◦ 和田博夫・伊藤潔・大見士朗・平野憲雄(京大防災研)
16:00	A055	白山における地震観測	◦ 酒井主計・高橋直季(金沢大学)・三宅学(名古屋大学)・平松良浩・古本宗充(金沢大学)・平田直(東大地震研)
16:12	A056	紀伊半島沖南海トラフ周辺の地震活動	◦ 尾鼻浩一郎・小平秀一・伊藤亜妃・藤江剛・金田義行(JAMSTEC)
16:24	A057	西南日本における深部低周波微動の周期的活動とそれに同期した傾斜変動	◦ 小原一成・廣瀬仁(防災科研)
16:36	A058	広帯域地震観測網による”とても低い”周波地震の検出(その4):南海ー琉球トラフ地域での活動度評価	◦ 石原靖(横浜市大)・山中佳子・菊地正幸(東大地震研)
16:48	A059	鳥取県西部地域における深部低周波地震群発活動	◦ 大見士朗・Jim MORI(京大防災研)
10月	7日		
午後	B会場	地盤構造・地盤震動・強震動・地震災害	
	座長	古村孝志・松島信一・長郁夫・工藤一嘉	
13:00	B049	スペクトルインバージョンによる足柄平野のサイト特性評価	◦ 植竹富一(東京電力)・工藤一嘉(東大地震研)
13:12	B050	1995年新潟県北部地震について	◦ 西澤勝(東北大)
13:24	B051	円形クラックを用いた震源のモデル化	◦ 引田智樹・池浦友則(鹿島技研)

13:36	B052	1855年安政江戸地震の広域震度分布と震源パラメータ：数値シミュレーションによる考察	◦ 古村孝志（東大地震研）
13:48	B053	1891年濃尾地震における岐阜ー宮線の断層モデル	◦ 中野 優・山岡 耕春(名大・環境学)・宮腰 淳一（清水建設）
14:00	B054	1978年宮城県沖地震の震源モデルの矩形パッチサイズとすべり速度関数の同定ー階層アスペリティモデルの提案ー	◦ 松島信一（清水建設和泉研）・川瀬 博（九大人間環境）・佐藤俊明（清水建設和泉研）
14:12	B055	スラブ内地震のアスペリティモデル	◦ 笹谷 努（北大・院・理）・森川信之（防災科研）
14:24	B056	横浜市における堆積層-基盤系の増幅特性	◦ 大池美保(アカシ)・木下繁夫(横浜市大)
14:36	B057	ESTIMATION OF SITE RESPONSE IN TIME DOMAIN USING THE MEYER-YAMADA WAVELET ANALYSIS	◦ Gulum Birgoren and Kojiro Irikura (DPRI, Kyoto Univ.)
14:48		休憩	
15:00	B058	地震動構成要素のフィルタ表現	◦ 木下繁夫（横浜市大）
15:12	B059	3個のセンサーによる簡単で機動的な微動アレイ探査:解析可能波長帯域を制限するファクターに関する定式化	◦ 長 郁夫（(財)地域地盤環境研）
15:24	B060	不完全飽和砂中のP波伝播実験ー間隙水圧の影響ー	◦ 小林芳正・兼間強(地質計測株)
15:36	B061	気象庁におけるナウキャスト地震情報	◦ 山田尚幸（気象庁地震火山部）
15:48	B062	名古屋大学における到達前地震情報活用の研究（1）独自強震観測データと気象庁ナウキャストデータの併合処理	◦ 林能成・山岡耕春・飛田潤・木村玲欧（名古屋大学災害対策室）・安藤雅孝・平原和郎・福和伸夫（名古屋大学環境学研究所）・原徹夫・伊藤貴盛（応用地震計測株）
16:00	B063	地震動表示システムROSE IIの開発	◦ 石田瑞穂・大井昌弘・藤原広行（防災科研）
16:12	B064	強震データベースの開発ー枠組みについてー	◦ 工藤一嘉（東大地震研）・成田 章（三菱スペース・ソフトウェア）・本間芳則（三菱スペース・ソフトウェア）
16:24	B065	「市民防災」促進のための震度情報の解説（2）ー耐震診断得点値との融合2：岐阜県ー	◦ 小山真紀・太田 裕（東濃地震科学研究所）
16:36	B066	「市民防災」促進のための震度情報の解説（3）ー包括的被害指標への変換の試みー	◦ 太田 裕・小山真紀（東濃地震科学研究所）

16:48	B067	地震性沈降による長期持続的被害—海面上昇問題の実感—	◦ 坂田正治 (防災科研)
10月	7日		
午後	C会場	地球及び惑星の深部構造と物性	
	座長	久家慶子・大滝壽樹・趙大鵬・平原和朗	
13:00	C049	固液複合系における弾性波動の伝播特性の測定	◦ 藤澤和浩・武井康子 (東大地震研)
13:12	C050	フィリピン海マントル遷移層における温度と含水量の推定	◦ 末次大輔 (IFREE)・塩原 肇 (IFREE/ERI)・小野重明 (IFREE)・井上徹 (GRC/愛媛大)・大林政行・杉岡裕子・小平秀一 (IFREE)・深尾良夫 (IFREE/ERI)・望月公廣 (東北大)・斉田智治 (名古屋大)
13:24	C051	フィリピン海のレイリー波位相速度の地域性	◦ 一瀬建日 (IFREE)・中村恭之 (ORI)・塩原肇・深尾良夫 (ERI/IFREE)・望月公廣・金沢敏彦 (ERI)・杉岡裕子・小平秀一 (IFREE)・日野亮太 (東北大)・末次大輔 (IFREE)
13:36	C052	大西洋地域の表面波群速度分布	◦ 松原邦明 (愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)・小林励司 (東大地震研)・趙大鵬 (愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)
13:48	C053	東南極大陸の上部マントル構造：高速度リッドとその解釈	◦ 久家慶子 (京大理)・深尾良夫 (東大地震研)
14:00	C054	南極下の内核境界付近の地震波速度構造 (II)	◦ 大滝壽樹 (産総研)・金嶋聡 (東工大)・神定健二 (気象庁)・井上公 (防災科研)・Ibnu Purwana (BMG, Indonesia)
14:12	C055	トンガ下のマントル遷移層構造	◦ 今任嘉幸・山田朗・趙大鵬 (愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)
14:24	C056	Heterogeneous seismic structure of the South African lower mantle as revealed by shear wave multiphase analysis	◦ Mungiya Kubanza, Hiroyuki Hamaguchi (Tohoku Univ.)
14:36	C057	ScP波を用いた西太平洋下部マントルの短波長不均質構造	◦ 出原光暉・山田朗・趙大鵬 (愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)

14:48	C058	波形インバージョンによる中米下のD'層の異方性構造の推定	° 河合研志(東大理)・竹内希(東大地震研)・ゲラーロバート(東大理)
15:00		休憩	
15:12	C059	Link between remnant Farallon plate and present day plate subduction revealed by seismic tomography.	° Alexei GORBATOV ・Yoshio FUKAO (IFREE/JAMSTEC)
15:24	C060	P, PPとPdiff波の走時測定：マン トル不均質とトモグラフィーに対 する意義	° 大田悠平・趙大鵬・山田朗(愛 媛大学地球深部ダイナミクス研究 センター)
15:36	C061	中国大陸東部下のマン トル遷移層 の詳細構造：沈み込む太平洋ス ラブの行方とプレート内火山の起 源	° 趙大鵬・雷建設(愛媛大学地球 深部ダイナミクス研究センター)
15:48	C062	日本列島下に沈みこむスラブと 410kmおよび660kmマン トル不連続面の分布	° 東野陽子(IFREE), 功刀卓(防 災科研), 深尾良夫(IFREE、東大 地震研), 坪井誠司(IFREE), 神 定健二(気象庁), 笠原敬司(防災 科研), Jeroen Tromp(Caltech), Dimitri Komatitsch(Caltech)
16:00	C063	大西洋中央海嶺下660km不連続を 貫くマン トル上昇流	° 中西一郎(京大理)・David Stevenson(CalTech/GPS)
16:12	C064	沈み込んだ冷たいスラブ付近のマ ントル構造(700~1500km)を強 くサンプルしたP- & S-波形のモ デリング	° 田島文子(広島大理)
16:24	C065	沈み込むスラブ下方より入射して 反射する遠地実体波を用いたスラ ブ下面の地震学的構造	° 綿田辰吾(東大地震研)
16:36	C066	日本列島および朝鮮半島下の上部 マン トル地震波速度不連続面のレ シーバ関数イメージング—深さと Ps変換波振幅の地域性—	° 利根川貴志・平原和朗(名大環 境)・渋谷拓郎(京大防災研)
16:48	C067	FDMレシーバ関数シミュレー ション—沈み込むスラブを含む2 次元不均質構造モデル—	° 平原和朗(名大環境)・古村孝志 (東大地震研)・利根川貴志(名大環 境)・渋谷拓郎(京大防災研)

表 5: 10月8日午前

時間	番号	題目	著者
----	----	----	----

10月	8日		
午前1	A会場	地震活動	
	座長	岩田貴樹・岡田正実	
9:00	A060	対数正規分布モデルによる南海トラフの長期地震発生確率の計算	° 岡田正実 (松代地震観)
9:12	A061	ランダムに発生する少数の地震から発生率の変化の有無を判定する統計的判別式	° 林 豊 (気象研究所)
9:24	A062	点過程モデルを用いた月齢と丹波山地の微小地震発生の相関に関する解析	° 岩田貴樹 (防災科研) ・片尾浩 (京大防災研)
9:36	A063	INDUCED SEISMIC ACTIVITY IN BRAZIL STUDIED THROUGH GEOTHERMAL AND GEOPHYSICAL SURVEYS	° Yamabe, T. H. (サンパウロ大) ・ Berrocal, J. (サンパウロ大) ・ 須藤靖明 (京大) ・ Leite, P. C. C. (サンパウロ大) ・ De Paula, B. L. (サンパウロ大)
10月	8日		
午前2	A会場	2003年5月26日宮城県沖の地震、2003年7月26日宮城県北部の地震	
	座長	本蔵義守・森川信之	
10:00	A064	2つの地震前に先行した強力なVHF帯電磁波シグナルについて	° 福島 毅 (千葉県立行徳高校)
10:12	A065	2003年宮城県沖M7.0・宮城県北部M6.2地震の前兆MF帯電磁波について	熊谷 卓・° 松永昌太 (榊新興技術研究所) ・宇田進一 (ネットワーク地球)
10:24	A066	宮城県沖地震及び宮城県北部地震における地震ダイナモ効果	° 本蔵義守 (東工大理工) ・佐藤秀幸 (産総研)
10:36	A067	宮城県沖・宮城県北部の地震による建物被害と震度との対応性	° 境有紀 (筑波大機能工学系) ・ 瀨瀬一起 ・坂上実 (東大地震研) ・神野達夫 (広島大院・工)
10:48	A068	2003年7月26日宮城県北部の地震の建物被害速報(1)	° 柴山明寛 (工学院大学) ・大田俊一郎 ・平野信一 ・松本秀明 ・村山良之 ・増田聡 ・佐藤健 ・源栄正人 (東北大学)
11:00	A069	救急・災害医療支援モデルとその活用ー震災発生を例としてー	° 石田勝彦 (電中研・東京理科大学)

11:12	A070	2003年5月26日宮城県沖の地震の北上低地帯に見られるやや長周期地震動	◦ 元木健太郎・荒井茂・上村康之 (東工大総合理工)
11:24	A071	2003年7月宮城県北部の地震の余震観測と地盤特性	◦ 山中浩明・元木健太郎・上村康之 (東工大総合理工)
11:36	A072	3つのタイプの地震による強震動の比較－2002年宮城県沖・2003年宮城県沖・宮城県北部の地震－	◦ 森川信之・青井真・藤原広行 (防災科研)
11:48	A073	2003年宮城県沖の地震と宮城県北部地震の短周期レベルとfmaxの推定	◦ 佐藤智美 (清水建設和泉研)
10月	8日		
午前	B会場	地球及び惑星の深部構造と物性・地殻構造	
	座長	綿田辰吾・河村知徳・飯高隆	
9:00	B068	地殻内反射波をもちいたLanders震源域の詳細構造	趙大鵬・◦ 東藤幸子・雷建設 (愛媛大学・地球深部ダイナミクス研究センター)
9:12	B069	Waveform modelling for studying crust and upper mantle structure beneath Japan	◦ モハメド ファローク・趙大鵬 (愛媛大学・地球深部ダイナミクス研究センター)
9:24	B070	Crustal structure and Moho topography beneath southwest Japan as estimated from crustal reflected waves	◦ モハメド サラー・趙大鵬・雷建設 (愛媛大学・地球深部ダイナミクス研究センター)
9:36	B071	鳥取県西部地震震源域の不均質構造:フィリピン海スラブの脱水と大山火山下のマグマの影響	◦ 谷秀人・趙大鵬・ミシュラ オム プラカシュ (愛媛大学・地球深部ダイナミクス研究センター)
9:48	B072	能動的な地殻状態常時監視システム (1) ACROSSアレイの構想	◦ 熊澤峰夫・國友孝洋・鶴我佳代子・羽佐田葉子・茂田直孝・中島崇裕・長尾大道・松本裕史 (東濃地科学センター)
10:00	B073	東北日本におけるS波エンベロープの経路依存性－第四紀火山分布との関係－	◦ 高橋努・佐藤春夫・西村太志 (東北大理)・小原一成 (防災科研)
10:12	B074	東北地方南部におけるS波偏向異方性	◦ 清水淳平・中島淳一・長谷川昭 (東北大理)
10:24		休憩	
10:36	B075	マントルウエッジの地震波低速度域－東北日本弧における島弧走向方向の変化と第四紀火山分布との	◦ 中島淳一・長谷川 昭 (東北大・院理)

		関係一	
10:48	B076	反射法地震探査による新庄盆地活褶曲の地下構造	° 加藤直子・佐藤比呂志（東大地震研）・小澤岳史（地科研）・八木浩司（山形大）
11:00	B077	長町一利府断層周辺の微細不均質構造の推定：3次元速度構造, AICによる振幅回復, およびマルチアレイの適用	° 平貴昭・蓬田清(北大・理・地惑)・桑原保人・今西和俊・伊藤久男(産総研)
11:12	B078	大都市圏地殻構造調査の最近の成果：相模2003および東京湾岸2003	° 佐藤比呂志・平田直・岩崎貴哉（東大震研）・伊藤谷生（千葉大）・笠原敬司（防災科技研）・額綱一起（東大震研）・伊藤潔（京大防災研）・河村知徳（東大震研）・井川猛・大西正純・阿部進（(株)地科研）
11:24	B079	大容量デジタルレコーダを用いた三浦半島における稠密地震観測：大都市圏地殻構造探査・東京湾測線2003	° 河村知徳・平田直・佐藤比呂志（東大地震研）・大西正純・野田克也（地球科学総合研究所）
11:36	B080	フィリピン海プレート上面からの反射波の深さ方向の振幅変化	° 飯高隆・岩崎貴哉・蔵下英司・武田哲也・河村知徳（東大地震研）
11:48	B081	2002年屈折・広角反射法に基づく糸魚川-静岡構造線北部の深部構造II	° 今井智子・岩崎貴哉・佐藤比呂志・武田哲也・蔵下英司・平田直（東大地震研）・川中卓・川崎慎治（地科研）
10月	8日		
午前	C会場	岩石実験・地殻応力・地球化学・地下水・地震に伴う諸現象	
	座長	吉岡直人・山下太・佃為成	
9:00	C068	過去の震源断層周辺の透水率構造・せん断破損特性～四万十帯興津メランジュ	° 加藤愛太郎(IFREE・JAMSTEC、東大地震研)・坂口有人(IFREE・JAMSTEC)・吉田真吾(東大地震研)・金田義行(IFREE・JAMSTEC)
9:12	C069	弾性波動による、ガウジを含んだ断層の破壊核形成過程を検出する試み	° 吉岡直人（横浜市大）
9:24	C070	摩擦溶融で地震は止まる？-その1-	° 小泉洋介・大槻憲四郎（東北大・理）
9:36	C071	摩擦溶融は地震を止める？-その2-	° 大槻憲四郎・小泉洋介（東北大・理）

9:48	C072	岩石破壊に伴う発光の観察：予備的実験	° 加藤護（京大人環）・岸本督司・志賀靖彦・三井雄太（京大総人）・柳谷俊（京大防災研）
10:00	C073	転がり疲労下のき裂分岐挙動に基づいたせん断応力と断層破壊の関係に関する考察	° 木田勝之（大阪大・院・基礎工学）
10:12	C074	模擬既存き裂の間隙水圧上昇に伴う誘発すべり挙動	° 根本克己・森谷祐一・新妻弘明（東北大院環境）
10:24		休憩	
10:36	C075	屏風山断層近傍の1000mボアホールにおける異なる深さでの初期応力測定 --応力開放法とDSCA法による結果--	° 石井 紘（東濃地震研）・山内常生（名大院環境）・浅井康広（東濃地震研）・松本滋夫（東大地震研）
10:48	C076	1995年兵庫県南部地震前の地殻応力場および断層の摩擦係数の推定	° 山下太・福山英一・小村健太郎（防災科研）
11:00	C077	Anisotropy and variation in shear wave splitting parameters beneath South Kamchatka	° マルガリータ ルネヴァ（ロシア科学アカデミーテクトニクス・地球物理学研究所、北大地震火山研究観測セ）
11:12	C078	三宅島の岩石のゼータ電位測定 - 傾斜ステップに伴う自然電位変動の定量化に向けて-	° 桑野修・吉田真吾・上嶋誠・小河勉・中井俊一（東大地震研）・佐藤秀幸（産総研）
11:24	C079	岩石破壊によるマイクロ波放射の観測と発生メカニズムの検討	° 牧謙一郎（東大工）・相馬央令子・石井健太郎（東京理科大工）・高野 忠（宇宙科研）・吉田真吾・中谷正生・桑野 修（東大地震研）
11:36	C080	深部地下水上昇による地表面現象 - 1995年兵庫県南部地震に伴った自噴泉の水温急上昇と長期的降下 -	° 佃 為成（東大地震研）
11:48	C081	北海道東部地域における地震に伴う地電位変動の観測	° 茂木透・高田真秀（北大地震火山研究観測センター）

表 6: 10月8日午後

時間	番号	題目	著者
10月	8日		

午後	A会場	2003年5月26日宮城県沖の地震、2003年7月26日宮城県北部の地震	
	座長	武村雅之・中原 恒・岡田知己・遠田晋次	
13:00	A074	震度インバージョン解析による宮城県沖の地震の短周期発生域：その1. 1936年、1978年、2003年の地震	° 神田克久・武村雅之（鹿島小堀研）
13:12	A075	震度インバージョン解析による宮城県沖の地震の短周期発生域：その2. 1898年、1897年、1861年の地震	° 武村雅之・神田克久（鹿島小堀研）
13:24	A076	防災科研Hi-netによる2003年5月26日宮城県沖の地震の余震分布	° 針生義勝・関根秀太郎・汐見勝彦・小原一成（防災科研）
13:36	A077	K-NET, KiK-netによる2003年5月26日宮城県沖の地震の地震動・震源過程	° 青井真（防災科研）・関口春子（産総研）・本多亮・森川信之・功刀卓・藤原広行（防災科研）
13:48	A078	2003年5月26日宮城県沖の地震(M7.0)の高周波エンベロープインバージョン解析	° 中原 恒(東北大・院・理)
14:00	A079	経験的グリーン関数法による2003年5月26日宮城県沖の地震(Mj7.0)の強震動シミュレーションと震源モデルの推定	° 浅野公之・岩田知孝・入倉孝次郎（京大防災研）
14:12	A080	2003年宮城県北部地震のコーナー周波数と地震モーメントの関係	° 泉谷恭男（信州大学工学部）
14:24	A081	2003年7月26日宮城県北部の地震(Mj6.2)の震源のモデル化とレシピアの検証	° 池田隆明(飛鳥建設)・釜江克宏(京都大学)・三輪 滋(飛鳥建設)・入倉孝次郎(京都大学)
14:36		休憩	
14:48	A082	余震観測から推定した2003年7月26日宮城県北部地震の余震のメカニズム解分布	° 海野徳仁・岡田知己・矢部康男・中島淳一・堀修一郎・河野俊夫・仁田交市・中山貴史・佐藤凡子・内田直希・迫田浩司・伊藤実・清水淳平・菅ノ又淳一・ナムブカラ シャンタ・長谷川昭（東北大・予知セ）・浅野陽一（防災科研）・長谷見晶子・出町智嗣・矢島良紀（山形大）
15:00	A083	震源分布から見た2003年7月26日宮城県北部の地震の破壊過程	° 岡田知己・海野徳仁・長谷川昭（東北大理）

15:12	A084	K-NET, KiK-netによる2003年7月26日宮城県北部の地震の地震動・震源過程	° 関口春子 (産総研) ・青井真・本多亮・先名重樹・功刀卓・藤原広行 (防災科研)
15:24	A085	2003年7月26日宮城県北部の地震：前震・本震・最大余震の震源過程	° 引間和人 (応用地質, 東大地震研) ・瀨瀬一起 (東大地震研)
15:36	A086	2003年7月26日宮城県北部で発生した地震の前震・本震・最大余震の震源過程とそれぞれの関係について	° 八木 勇治 (建築研) ・伊藤喜宏・浅野陽一・関根秀太郎 (防災科研)
15:48	A087	宮城県北部およびその周辺の地殻不均質構造と地震活動	° 浅野陽一・小原一成 (防災科研) ・中島淳一・長谷川昭 (東北大・院・理)
16:00	A088	2003年宮城県北部地域や宮城県沖の前震・余震活動の統計解析と歪み変化による余震発生率の低下	° 尾形良彦 (統数研)
16:12	A089	2003年5月26日宮城県沖の地震前後の内陸地震活動の変化とその意味	° 遠田晋次・オンジェルアリ・堀川晴央 (産総研活断層)
16:24	A090	宮城県沖とその周辺における最近の地震活動と地殻変動	° 三浦 哲・諏訪謡子・佐藤俊也・立花憲司・長谷川 昭 (東北大院理)
16:36	A091	The 2003 Miyagi-oki earthquake: Fine structure of the subducting Pacific slab	° ミシュラ オム プラカシュ・趙大鵬 (愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター)
16:48	A092	プレート間地震、スラブ地震、上盤側プレート内地震の関係：宮城県沖の場合	° 瀬野徹三 (東大地震研)
10月	8日		
午後	B会場	地殻構造	
	座長	蔵下英司・松本 聡・西澤あずさ・宮町宏樹	
13:00	B082	レシーバ関数解析による糸魚川-静岡構造線周辺の地殻構造の推定	° 吉本和生・藤澤宏篤・岡田知己・海野徳仁・長谷川昭 (東北大) ・小原一成 (防災科研) ・塚原弘昭 (信州大) ・岡本茂・川中卓 (地科研) ・佐藤比呂志 (東大地震研) ・佐藤春夫・大竹政和 (東北大)
13:12	B083	海陸広帯域地震観測と海底地震探査による日本海海陸境界域の地震波速度構造	° 中東和夫・篠原雅尚・山田知朗 (東大地震研) ・植平賢司 (九大島原) ・酒井慎一・有坂道雄・伊

			東正和・望月公廣・塩原肇・金沢敏彦（東大地震研）
13:24	B084	レシーバ関数インバージョンによって推定した松代直下の地殻及び最上部マントルのS波速度構造	° 安藤利彦・竹中博士（九大・理）・村越匠（産総研）・高山博之（気象研究所）・小河原隆広・仲底克彦（松代精密地震観）
13:36	B085	1984年長野県西部地震の断層破碎帯の内と外で起こる地震の違い—応力降下量，発震機構，地震波形の比較—	° 堀内茂木・高井香里（防災科研）・伊藤忍（産総研）・飯尾能久（京大防災研）
13:48	B086	散乱波トモグラフィーによる中国地方東部の地殻不均質構造—Hi-netデータによる日本全域解析に向けて—	° 西上欽也（京大防災研）・Anshu JIN（地震予知振興会／防災科研）
14:00	B087	屈折法・広角反射法地震探査による西南日本弧の地殻構造(2)	° 蔵下英司・岩崎貴哉・飯高隆・河村知徳（東大地震研）・森谷武男（北大理）・伊藤 潔・澁谷拓郎（京大防災研）・宮町宏樹（鹿大理）・佐藤比呂志（東大地震研）・Miller Kate（UTEP）・Steven Harder（テキサス大エルパソ校）・伊藤谷生（千葉大理）・金田義行（海洋センター）・大西正純（地科研）
14:12	B088	海底地震探査による鳥取沖・日本海南西部の深部地殻構造（2）	° 佐藤 壮・三浦誠一・藤江 剛・尾鼻浩一郎・伊藤亜妃（海洋センター）・Dong-Hyo Kang（KIGAM）・小平秀一・末廣潔・金田義行（海洋センター）・岩崎貴哉（東大地震研）
14:24	B089	2001年雲仙火山探査データによる千々石断層の検出	° 渡邊篤志・松本 聡（九大・地震火山センター）
14:36	B090	小アレイ観測による布田川-日奈久断層系周辺の不均質構造検出	° 松本聡・渡邊篤志・植平賢司・松島健・是永将宏・清水洋（九大・地震火山センター）
14:48	B091	制御震源を用いた伊豆大島周辺の地震波速度構造	° 伊東正和・篠原雅尚（東大地震研）・佐藤利典（千葉大・理）・日野亮太・西野実（東北大・理）・笠原順三・渡辺秀文・金沢敏彦（東大地震研）
15:00		休憩	
15:12	B092	伊豆・小笠原弧中部における島弧—海洋地殻遷移域の速度構造	° 西澤あずさ・金田謙太郎・瀬田英憲・梅田安則・志岐俊郎・下村広樹・渡辺一樹・伊藤清寿・谷伸（海洋情報部）

15:24	B093	北緯31° 伊豆・小笠原沈み込み帯における地震波速度構造とFDMシミュレーションによる蛇紋岩の存在可能性	° 上村 彩 (防災科研) ・ 笠原順三 (東大地震研)
15:36	B094	海底孔内地震計・海底地震計とエアガンを用いた西フィリピン海盆・九州パラオ海嶺の地震波速度構造	° 有坂道雄・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣 (東大・地震研) ・海宝由佳・荒木英一郎 (JAMSTEC) ・中東和夫・伊東正和・塩原肇 (東大・地震研) ・末廣潔 (JAMSTEC) ・金沢敏彦 (東大・地震研)
15:48	B095	マリアナ弧の地殻構造	° 高橋成実・小平秀一・伊藤亜妃 (海洋センター) ・Brian KERR・Ioan Vlad・Simon Klempner (スタンフォード大) ・金田義行・末広潔 (海洋センター)
16:00	B096	自然地震解析による台湾の地殻構造	° 本田史紀・平田直・蔵下英司・酒井慎一 (東大地震研) ・黄柏壽 (台湾中央研究院) ・顔宏元 (台湾国立中央大学)
16:12	B097	Shear velocity image of an exposed Archaean continental crust, Dharwar Craton, INDIA	° S. S. Rai and Sandeep Gupta
16:24	B098	エアガンと海底地震計を用いたオーストラリアー南極不連続 (AAD) の地震波速度構造	° 児島佳枝・篠原雅尚・望月公廣・山田知朗・中東和夫・金沢敏彦 (東大地震研)
16:36	B099	東南極みずほ高原下の地殻構造ーJARE41人工地震データの再解析ー	° 宮町宏樹 (鹿児島大) ・筒井智樹 (秋田大) ・戸田茂 (愛教大) ・金尾政紀 (極地研)
16:48	B100	東南極・みずほ高原下の深部地殻構造	° 山下幹也 (総合研究大学院大) ・宮町宏樹 (鹿児島大) ・金尾政紀 (極地研)
10月	8日		
午後	C会場	地殻変動・GPS・重力	
	座長	藤本博巳・田所敬一・吉川澄夫・廣瀬 仁	
13:00	C082	断層モデルによる地表上下変動のパラドックス (2) 開口断層	° 岡田義光 (防災科研)
13:12	C083	モンテカルロ混合カルマンフィルタを用いた測地データの時間依存インバージョン手法の開発	° 福田淳一 (東大地震研) ・樋口知之 (統数研) ・宮崎真一・加藤照之 (東大地震研)

13:24	C084	オンライン3次元海底測位システム(1)	° 江口孝雄 (防衛大地球海洋学科)
13:36	C085	三陸沖日本海溝周辺海底測地観測の開始	° 藤本博巳・スウィーニィ アーロン・伊藤実・日野亮太・三浦哲・山本揚二郎・清水淳平・菅ノ又淳一 (東北大理)・荒木英一郎・松本浩幸 (JAMSTEC)・渡辺正晴 (東大海洋研)・金沢敏彦・長田幸仁 (東大地震研)
13:48	C086	日本海溝陸側におけるブイを用いたGPS/音響測位	° 伊藤実・藤本博巳・スウィーニィ アーロン・日野亮太・三浦哲・山本揚二郎・清水淳平・菅ノ又淳一 (東北大理)・渡辺正晴 (東大海洋研)・長田幸仁 (東大震研)・川上 太一 (海洋電子(株))
14:00	C087	August 2003 GPS/Acoustic observations east of the Japan Trench	° Aaron Sweeney, H. Fujimoto, M. Ito, S. Miura, R. Hino, Y. Yamamoto, J. Shimizu, J. Suganomata (RCPVEP, Tohoku Univ.), M. Watanabe (ORI, Univ. Tokyo), Y. Osada, T. Kanazawa (ERI, Univ. Tokyo)
14:12	C088	海底位置決定精度 1cm も夢ではない: 新たな解析手法の開発について	° 徐 培亮 (京大防災研)・安藤雅孝・田所敬一 (名大環境学研究科)
14:24	C089	駿河湾および熊野灘における海底地殻変動くり返し観測ー海底局網の構築と高度化へ向けてー	° 田所敬一・安藤雅孝・奥田隆・杉本慎吾・矢田和幸・高谷和典 (名大環境学研究科)
14:36	C090	海水音速構造の不均質性と海底位置決定精度について	° 矢田和幸・奥田 隆・田所敬一・杉本慎吾・高谷和典・安藤雅孝 (名大環境学)・久野正博 (三重県科学技術振興センター水産研究部)
14:48	C091	キネマティックGPS解析ソフトの精度評価ー海底地殻変動観測に向けてー	° 高谷和典・杉本慎吾・矢田和幸・田所敬一・奥田隆・安藤雅孝 (名大環境学研究科)
15:00		休憩	
15:12	C092	コスタリカ、ニコヤ半島におけるGPS観測	° 飯沼卓史・加藤照之・宮崎真一 (東大地震研) 尾鼻浩一郎・金田義行 (JAMSTEC・IFREE)・Jorge Marino Protti・Victor Gonzalez・Rodlfo Van der Laat・Enrique Hernandez (OVSICORI-UNA)
15:24	C093	房総半島における近年のスロースリップに伴う歪蓄積/解放過程	° 吉川澄夫 (気象研)

15:36	C094	伊豆大島西方域において進行している歪の蓄積について	◦ 村上 亮 (国土地理院)
15:48	C095	銭洲海嶺の運動の再決定	◦ 田部井隆雄 (高知大理) ・木股文昭・宮島力雄 (名大院環境)
16:00	C096	GPSデータから求めた東海地域におけるプレート間カップリングの再検討	◦ 太田雄策・木股文昭・鷺谷威 (名大院環境学)
16:12	C097	傾斜及び地震観測で捉えた東海地域におけるスロースリップイベント一繰り返し発生している可能性一	◦ 山本英二・松村正三・大久保正 (防災科研)
16:24	C098	西南日本の周期的深部低周波微動に同期するスロースリップイベント一Hi-net傾斜計による検出一	◦ 廣瀬 仁・小原一成 (防災科研)
16:36	C099	2000年鳥取県西部地震の余効変動のモデル化 (再訪)	◦ 橋本学 (京大防災研) ・田部井隆雄 (高知大理) ・鷺谷威 (名大理) ・伊藤武男 (名大理)
16:48	C100	紀伊半島における南海・東南海地震の余効変動	◦ 海津優 (国土地理院)

表 7: 10月6日ポスター

時間	番号	題目	著者
10月	6日	ポスターセッション	
		地震の理論・解析法	
	P001	四面体分割の地震波トモグラフィへの応用	◦ 干野真 (北大理)
	P002	有限要素法形状関数を用いた地震波速度構造内挿によるグリッド間隔の可変性	◦ 関口渉次 (防災科研)
	P003	グリッドモデルを用いた運動学的震源インバージョン	◦ 竹中博士・藤井雄士郎 (九大大理)
	P004	一般形状の固液境界に対する差分法を用いた高精度理論波形計算手法の開発	◦ 水谷宏光 (IFREE/JAMSTEC) ・ゲラーロバート (東大理)
	P005	断層破碎帯の反射特性一異方性層としてのモデル化一	◦ 村井芳夫 (北大理)

P006	Transverse isotropic 媒質における turning point での qS波の共鳴問題	° 蓬田 清 (北大理) ・ M. M. Popov (ロシア科学アカデミー)
P007	Application of fractal model of electrical and elastic properties of porous rock Hirabayashi borehole data.	° マリナ・ペルブヒナ・桑原保人・木口努・伊藤久男 (産総研)
	テクトニクス	
P008	コア試料から推定された東北日本の地殻応力	° 佐藤凡子・矢部康男・山本清彦・長谷川昭 (東北大院理) ・小原一成・笠原敬司 (防災科研)
P009	地殻熱流量のデータから推定される西南日本におけるフィリピン海プレート上面の温度分布の再検討	° 村上浩司(九大理) ・ 吉岡祥一(九大理)
P010	G P S 速度場と地震活動に基づく南西諸島の定常地殻変動	° 渡部豪・田部井隆雄 (高知大・理)
P011	非対称リフティングにともなった Rift Flank Upliftに関する数値モデリング：南極横断山脈への応用	° 山崎雅・三浦英樹・野木義史 (国立極地研究所)
P012	カルデラの規模を決めるマグマ溜りの深さと収縮量の関係	° 楠本成寿 (東海大・海洋) ・ 竹村恵二 (京大・地球熱学)
	地球熱学	
P013	光ファイバーによるHi-net孔井の温度測定	° 松本拓己・小村健太朗・中島裕介・増子徳道 (防災科研)
	地震発生の物理	
P014	プレート境界面の摩擦パラメータの推定について	° 加藤尚之 (東大地震研)
P015	地震発生前後のすべりの時空間発展と摩擦パラメータとの関係	° 有吉慶介 (東北大学) ・ 矢部康男 (東北大学) ・ 長谷川昭 (東北大学)
P016	沈み込み帯におけるプレート間巨大地震破壊域のセグメンテーションを規定する要因	° 堀 高峰・金田義行 (IFREE)
P017	サンアンドレアス断層の絶対強度：ビックバンドでの応力蓄積過程のモデル化	° 寺川寿子・松浦充宏 (東大理)
P018	活断層情報から推定した断層モデル・応力場での六甲・淡路断層系の動的破壊過程：兵庫県南部地震との比較	° 加瀬祐子・関口春子・杉山雄一・堀川晴央・石山達也・佐竹健治 (産総研)

P019	Efficient Numerical Procedure for Reduction of Computation Time in BIEM for Elastodynamic Analysis of Non-planar Faults	° 亀 伸樹 (九大理)
P020	開口型クラックの自発的分岐過程と高周波数波動の励起	° 玉手弘一郎・佐藤春夫・西村太志 (東北大理)
P021	接合要素を用いた断層の有限要素モデル	° 藤田博之 (防大地球) ・岩瀬康行 (防大地球)
P022	含水および無水条件下における石英および長石類の摩擦パラメータの温度依存性について	° 新井崇史・高橋美紀・増田幸治・藤本光一郎・重松紀生・角井朝昭・奥山康子 (産総研)
P023	脆性塑性遷移条件下での斜長石の塑性変形：実験的アプローチ	° 重松紀生・新井崇史・高橋美紀・増田幸治・東宮昭彦 (産総研)
P024	ACROSSによる間隙水圧上昇の検出の試み -野島断層注水実験時の変動-	° 生田領野・山岡耕春・見須裕美・宮島力男 (名大院環境)
P025	大地震直後の断層の透水性の時間変化 -淡路島野島断層での繰り返し注水実験-	° 北川有一 (産総研) ・藤森邦夫 (京大理) ・小泉尚嗣 (産総研)
P026	Seismic Energy of Small Earthquakes Using Hi-net Data	Anupama Venkataraman・Gregory C. Beroza (Dept. Geophysics, Stanford University) ・° Satoshi Ide (Dept. EPS, University of Tokyo)
P027	2000年鳥取県西部地震の余震活動に関するEnergy Indexの時空間分布	° 川方 裕則 (京大防災研) ・長田絹絵 (北大理)
P028	微小地震の断層面および破壊伝播速度の推定：地震波放射効率の拘束 -南アフリカ金鉱山での至近距離高サンプリング地震観測-	° 山田卓司・James Mori (京大防災研) ・小笠原宏 (立命館大理工) ・飯尾能久・川方裕則 (京大防災研) ・井出哲 (東大理) ・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
P029	近地強震計記録を用いた1982年茨城県沖地震の震源過程	° 室谷 智子・菊地 正幸・山中 佳子 (東大地震研)
P030	Rupture areas of large earthquakes in Papua New Guinea in 1971 and 2000	° PARK, Sun Cheon・MORI, James (京大防災研)
P031	Dynamic Rupture Process of the Chi-Chi, Taiwan earthquake with a bending fault model	° 呉長江・武尾実 (東大地震研)
P032	芸予地震の動的震源過程(3)第2アスペリティの破壊条件	° 宮武 隆・安田拓美 (東大地震研)

P033	地殻内地震発生層と地震波反射面	° 伊藤 潔・上野友岳・吉井弘治 (京大防災研)
	活断層と古地震	
P034	1828年越後三条地震の地変等の記事について	° 植竹富一(東京電力)・中村亮一・高橋裕幸(東電設計)
P035	糸静線付近に起きた正徳4年(1714)信州小谷地震と安政5年(1858)大町地震の詳細震度分布	° 都司嘉宣(東大地震研)
P036	津軽海峡南北両縁辺部に分布する活構造とその延長性	° 伝法谷宣洋(電源開発)・垣見俊弘(元地質調査所)・植原茂次(地震予知振興会)・市川八州夫(応用地質)・高智英二郎(総合地質調査)
P037	活動履歴からみた木曾山脈西縁断層帯のセグメント区分	° 宍倉正展・遠田晋次(産総研・活断層研究センター)・荻谷愛彦(千葉大学)・永井節治(南木曾町読書4218-3)・二階堂学・高瀬信一((株)ダイヤコンサルタント)・橘 徹(瀬戸内環境地質研究会)
P038	阿寺断層系湯ヶ峰断層の古地震活動時期	° 廣内大助(名古屋大)・安江健一(富山大)・金田平太郎・杉戸信彦(京都大)・谷口薫(地震予知総合研究振興会)・内田主税(玉野総合コンサルタント)・平松孝晋(名古屋大)・畠本和也(富山大)
P039	富山平野東縁, 魚津断層の第四紀後期における上下変位速度分布	° 中村洋介(京大理)
P040	邑知潟平野南東縁・石動山断層の水白地区におけるトレンチ調査(速報)	° 杉戸信彦(京大理)・水野清秀(産総研活断層)・堤 浩之・松岡 暁(京大理)・吾妻 崇・下川浩一(産総研活断層)
P041	S波ランドストリーマーによる八幡丘陵東縁部の浅部変形構造調査	° 稲崎富士・加野直巳・横倉隆伸・山口和雄(産総研・地球科学情報研究部門)
P042	山口市付近をとる活断層とその活動性調査	° 水野清秀・下川浩一・佃 栄吉(産総研・活断層)・小松原 琢(産総研・地球科学)・松山紀香(ジャーナル)・新見 健(復建調査設計)・森野道夫(応用地質)
P043	断層系の発達過程および断層変位地形の形成過程-断層模型実験による基礎的検討-	° 上田圭一(電力中央研究所)
P044	産総研・活断層データベースの活断層評価への適用	° 吉岡敏和・栗田泰夫・伏島祐一郎(産総研活断層)

		津波	
	P045	1971年8月2日十勝沖地震により発生した津波の解析	° 谷岡勇市郎（北大地震火山研究観測センター）
	P046	釧路沖・室戸沖の海底圧力計のデータから決めた津波マグニチュード	° 馬場俊孝・平田賢治・金田義行（JAMSTEC）
		学校教育と知識普及	
	P047	「Quake Trackers 日本語版」作成の試み	° 根本泰雄（阪市大・院・理）・松本みどり・奥田智晴・塚偉・吉岡真弓（阪市大・理）・山田茂伸・福住哲哉・中迎誠（阪市大・院・理）
		地震一般	
	P048	LISSデータのリアルタイム処理とグリッドサーチ法による震源計算	° 古舘友通（気象庁）
	P049	震源断層面を迅速かつ自動的に推定する簡便な手法－手法の改良と自動処理データへの適用－	° 堀貞喜（防災科研）
	P050	IISEEからの地震情報発信	° 原 辰彦・八木勇治・古川信雄・鹿嶋俊英（建築研究所国際地震工学センター）
	P051	全日本上部地殻S波偏向異方性分布－Hi-netデータを用いて－	° 榊原洋介・田所敬一・平原和朗（名大環境）
	P052	山陰地方における地震活動の定量化	° 野口竜也・渡辺邦彦・板場智史（京大防災研）・西田良平（鳥大工）
	P053	鳥取県西部地震（2000, M7.3）で認められた異常震域（境港市）での地震観測	° 岡本拓夫（福井高専）・野口竜也（京大防災研）・西田良平・小野悠樹（鳥大工）
	P054	福井県内の観測点で計測された震度の特徴について	° 福井高専地球物理学研究会 代表 岡本拓夫
	P055	ケーブル式海底地震計の姿勢と強震動	° 平田賢治・川口勝義（海技セ）
	P056	西フィリピン海盆海底孔内広帯域地震観測所WP-1における雑微動長期変動	° 篠原雅尚・金沢敏彦（東大地震研）・荒木英一郎・末広潔（海技セ深研）・山田知朗・望月公廣・塩原肇・中東和夫（東大地震研）・三ヶ田 均（海技セ深研）・深尾良夫（東大地震研）
	P057	内部潮汐波の励起による海中音波速度の半日周期変動	° 杉岡裕子（IFREE）・深尾良夫（東大地震研）・日比谷紀之（東大理学部）
	P058	見えてきた地球大気の自由振動－禁止帯の検出－	° 綿田辰吾・西田究・竹内希（東大地震研）・加藤禎博・木挽俊彦（国立天文台）・石塚秀喜（東大

			宇宙線研)
P059	神岡地下に設置された100mレーザー伸縮計の性能評価		° 新谷昌人 (東大地震研) ・ 森井亘 ・ 赤松純平 (京大防災研) ・ 竹本修三 ・ 百瀬秀夫 (京大理) ・ 市川信夫 (京大防災研) ・ 尾上謙介 (京大理)
	地震予知		
P060	Temporal correlation between coda 1/Q and seismicity-multiscale trend analysis		° Anshu Jin (地震予知振興会/防災科研) ・ Ilya Zaliapin (UCLA, USA/IIPTMG, Russia)
P061	潜在的前震を用いた地震確率モデルの検証		° 井元政二郎 ・ 山本菜穂子 (防災科研)
	強震動予測：現状と将来展望		
P062	特性化震源モデルと動的震源パラメータ (4)		° 岩田知孝 (京大防災研) ・ 関口春子 (産総研活断層研究センター) ・ 三宅弘恵 (東大地震研) ・ ZHANG Wenbo (京大防災研) ・ 宮腰 研 (地盤研究財団)
P063	強震波形のインバージョンによる2001年芸予地震の震源過程：Green関数の見直し		° 笥 楽磨 (神戸大理)
P064	断層による不連続構造を考慮した大阪堆積盆地の3次元地盤構造モデル		° 堀川晴央 ・ 水野清秀 ・ 石山達也 ・ 横倉隆伸 ・ 関口春子 ・ 加瀬祐子 ・ 佐竹健治 ・ 杉山雄一 (産総研) ・ 横田 裕 ・ 末廣匡基 (阪神コンサルタンツ) ・ 岩淵 洋 (第十管区海上保安本部) ・ 北田奈緒子 (地環研) ・ Arben Pitarka (URS Corp.)
P065	大阪堆積盆地における地震動予測地図 (暫定版)		° 関口春子 ・ 堀川晴央 ・ 加瀬祐子 ・ 石山達也 ・ 佐竹健治 ・ 杉山雄一 ・ 水野清秀 (産総研・活断層研究センター) ・ Arben Pitarka (URS Corp.)
P066	森本・富樫断層帯の地震を想定した強震動評価について		° 先名重樹 ・ 青井真 (防災科研) ・ 神野達夫 (広島大) ・ 森川信之 ・ 藤原広行 (防災科研)

表 8: 10月7日ポスター

時間	番号	題目	著者
10月	7日	ポスターセッション	
		地震計測・処理システム	
	P067	強震記録用加速度計	° 佐久間貞臣・玉木崇之（トキメック）・畠山浩幸（高見沢メックス）・飯森敬明（高見沢サイバネ）・功刀卓（防災科研）
	P068	大深部・多チャンネル観測のために開発したデジタル伝送方式	° 大久保 慎人・石井 紘・浅井 康広（東濃地震科学研究所）・山内常生（名大院 環境）
	P069	小型PCを利用した地震解析システムの構築：エクアドルにおける火山災害軽減研究協力での活用	° 山品匡史・熊谷博之（防災科研）
	P070	地震活動分類支援プログラム xhypoedit の開発	° 青柳恭平（電力中央研究所）
	P071	STA/LTAを用いた地殻変動異常判定の検討	° 原田昌武・棚田俊收・伊東博・代田寧・板寺一洋（神奈川温地研）
	P072	インドネシア及び南西太平洋における広帯域地震観測（1）観測網の運用	° 井上公・熊谷博之・根岸弘明・宮川幸治・山品匡史・雷楓・石田瑞穂（防災科研）
	P073	インドネシア及び南西太平洋における広帯域地震観測（2）1観測点による震源及びメカニズム解析	° 根岸弘明・山品匡史・雷楓（防災科研）
	P074	広帯域地震観測網（F-net）における深発地震の検知能力（2）	° 松本拓己（防災科研）
	P075	Refinement of precision of automatic phase determination procedure using statistical methods	° Alexei GORBATOV・Seiji TSUBOI (IFREE/JAMSTEC)
	P076	防災科研 Hi-net を用いた震源及び構造モデルの構築に向けて	° 関根秀太郎・針生義勝（防災科研）・八木勇治（建築研）・浅野陽一・伊藤喜宏・汐見勝彦（防災科研）
	P077	REIS（リアルタイム地震情報システム）における自動震源計算結果の新しい評価手法の開発	° 上村 彩・堀内茂木（防災科研）
	P078	情報利用者の立場によるリアルタイム地震情報の精度評価	° 浅原 裕・藤縄幸雄（リアルタイム地震情報利用協議会）
	P079	中国・四国地方のリアルタイム地震データ情報のアクセスと活用	° 田島文子（広島大理）・卜部卓（東大地震研）・堀内茂木（防災科学技術研究所）・山根清和・

			須田直樹・中久喜伴益（広島大理）
		地震活動	
P080	最近の日本の地震についてのb値およびp値の震源過程との関係 =Part 2=		◦ Enescu Bogdan・伊藤 潔（京大防災研）
P081	深部低周波微動・地震の力源の方向		◦ 勝間田明男・中橋正樹（気象大学校）・鎌谷紀子（気象庁）
P082	深部低周波地震と第三紀の火山		◦ 鎌谷紀子（気象庁地震火山部）・勝間田明男（気象大学校）
P083	長期OBS観測による1994年三陸はるか沖地震余震域の微小地震活動		◦ 桑野亜佐子・日野亮太・西野実（東北大・理）・佐藤利典（千葉大・理）・塩原 肇・笠原順三・金沢敏彦（東大・地震研）・矢吹哲一朗（海上保安庁・海洋情報部）・藤本博巳（東北大・理）
P084	1982年茨城県沖地震震源域周辺における海底地震・圧力観測		◦ 山田知朗・金沢敏彦・卜部卓・篠原雅尚・望月公廣・中東和夫・中村美加子・伊東正和・児島佳枝（東大地震研）・西野実・藤本博巳（東北大理）・塩原肇・有坂道雄（東大地震研）
P085	三宅島周辺域の地震活動（まとめ）		◦ 酒井慎一・山田知朗・萩原弘子・金沢敏彦（東大地震研）
P086	三宅島・神津島近海の3次元速度構造とb値		◦ 萩原弘子・酒井慎一・山田知朗・金沢敏彦（東大地震研）
P087	神奈川県西部における最近の地震活動と想定震源断層モデルとの関係		◦ 棚田俊收（神奈川温地研）
P088	神奈川県西部地域における相似地震活動		◦ 村瀬 圭・伊東 博・棚田俊收（神奈川温地研）
P089	東海地方における震源分布のフラクタル次元の時間変化について—スローイベントとの関連性—		◦ 村瀬 圭（神奈川県温泉地学研究所）
P090	四国付近の地震活動		◦ 木村昌三・川谷和夫（高知大理地震観）
P091	島根・広島県境地域，三瓶山東麓周辺の地震活動		◦ 澁谷拓郎（京大防災研）
P092	Wavelet変換による阿蘇火山の長周期微動の検出		◦ 松林弘智・小原一成（防災科研）
P093	1999年台湾集集地震における詳細な余震活動分布と応力変化の影響		◦ 永井悟・平田直（東大地震研）

P094	マリアナでの長期海底地震観測： 深発地震活動	° 塩原肇・望月公廣・大木聖子・ 金沢敏彦・深尾良夫(東大地震 研)・杉岡裕子(IFREE, Jamstec)・ 末広潔(DSRD, Jamstec)
P095	月に働く潮汐応力と深発月震活動	° 小山順二(北大理)
	地震に伴う諸現象	
P096	LPDAを用いて観測されたVHF帯環 境電磁波と地震との相関関係	° 福田健二・江本豊・山中千博・ 池谷元伺(阪大院理)
P097	アクロス計測による複素誘電率ス ペクトル測定 IV. 改良四極法に よる1/f型誘電分散の測定	° 松本裕史・茂田直孝・熊澤峰 夫・中島崇裕(サイクル機構)
P098	電場、磁場強度の多点観測データ 解析 ～環境電磁波測定ネット ワークから	° 江本豊・福田健二・鈴木聡史・ 山中千博・池谷元伺(阪大院理)・ 谷口明(東洋メディック株式会 社)
	岩石実験・地殻応力	
P099	粘土鉱物のリング剪断その場赤外 スペクトル測定	° 廣野哲朗(JAMSTEC)・田中秀実 (東大)・中嶋悟(東工大)
P100	2000年三宅島神津島群発地震のメ カニズム解を用いた応力テンソル 解析	° 久保篤規・福山英一(防災科 研)
	地球化学・地下水	
P101	茂住調査坑道における間隙水圧の 地震波にたいする応答	° 加納靖之・柳谷俊(京大防災 研)・山下太(防災科研)
	強震動・地震災害	
P102	地表断層・潜在断層と横ずれ断 層・逆断層による地震動	° 香川敬生(地盤研究財団)
P103	濃尾平野の3次元地下構造と地震 波の伝播(2)	° 小谷明・古村孝志(東大地震 研)・平原和朗(名大環境)
P104	十勝沖～根室沖の地震の震源及び 伝播経路特性	° 森川信之・藤原広行(防災科 研)
P105	経験的グリーン関数法を用いた 1994年三陸はるか沖地震の震源過 程の推定	° 宮原昌一・笹谷努(北大・理)
P106	経験的グリーン関数と焼きなまし 法を用いた広帯域強震動評価のた めの震源インバージョン	° 芝良昭(電力中央研究所)
P107	Estimation of dynamic source parameters for a non-vertical fault using a 3D-FDM with variable grid spacing	° Wenbo Zhang・Tomotaka Iwata・ Kojiro Irikura(DPRI, Kyoto Univ.)

P108	南海トラフ沿いの地震によるやや長周期地震動予測 —気象庁1倍強震計記録に基づく経験的予測—	◦ 座間信作・遠藤 真 (消防研)
P109	やや長周期地震動特性からみた地震地体構造区分 —その1. 自己組織化マップの適応可能性について—	◦ 座間信作・細川直史 (消防研)
P110	関震協・尼崎観測点の記録に見られる連続的な後続波 (2)	◦ 赤澤隆士 (地盤研究財団)
P111	漸化式フィルターによる速度応答計算	◦ 功刀 卓・藤原広行 (防災科 研)
P112	Velocity structure determination: A neural network approach	◦ Aaron Moya・Kojiro Irikura (DPRI Kyoto Univ.)
P113	地震災害を想定した地震被害情報収集システムの実験	◦ 柴山明寛 (工学院大学大学院)・久田嘉章 (工学院大学)
P114	名古屋大学における到達前地震情報活用の研究 (2) システムの設計と製作	◦ 伊藤貴盛・原徹夫 (応用地震計測(株))・林能成・山岡耕春・飛田潤・木村玲欧 (名大災害対策室)・安藤雅孝・平原和郎・福和伸夫 (名大環境学)
P115	早期地震諸元推定手法における推定精度について	◦ 中村洋光 (鉄道総研)・大竹和生 (鉄道総研)・東田進也 (気象庁)・芦谷公稔 (鉄道総研)
	地盤構造・地盤震動	
P116	ボアホール地震計鉛直アレーデータをを用いた位相分解法とその応用	◦ 吉田邦一・笹谷 努 (北大・理)
P117	強震データを用いた震源・伝播経路・サイト各特性の分離とS波速度構造の同定	◦ 川瀬博 (九大人間環境)・松尾秀典 (日立システム&サービス)
P118	琵琶湖西岸及び日向灘の付近の地震動特性	◦ 古村美津子 (地震予知振興会)
P119	複素体積弾性率を用いた強震時の Q_p と Q_s の推定	◦ 佐藤浩章 (電中研)・金谷守 (電中研)
P120	2003年5月宮城県北部で発生した地震の関東平野におけるやや長周期地震動の特徴	◦ 山田伸之 (京大防災研)・山中浩明 (東工大総合理工)
P121	近畿地方における中規模地震記録を用いたやや長周期地震動シミュレーション	◦ 山田伸之・岩田知孝 (京大防災研)
P122	千葉県北西部・利根運河沿いの地下構造	◦ 山口和雄・加野直巳・伊藤忍・大滝壽樹・横田俊之・横倉隆伸・田中明子 (産総研)

	P123	バイブレータ震源屈折法によるS波速度構造：大大特房総測線の解析	° 瀨瀨一起・佐藤比呂志・平田直（東大地震研）・野田克也・井川猛（ジオシス）
	P124	関東平野北西部の反射法地震探査による地下構造（その2）	° 小澤岳史・川崎慎治・川中卓・井川猛（地科研）・伊藤谷生（千葉大）・笠原敬司（防災科研）・佐藤比呂志（東大地震研）
	P125	座間一平塚におけるバイブロサイス反射法地震探査	° 川崎慎治・井川猛（地科研）・太田陽一（石油資源開発）・瀬尾和大（東工大）・杉原英和（神奈川県）
	P126	京都盆地南部低地-丘陵境界周辺における反射法探査・重力探査に基づく地下構造	° 横倉隆伸・駒澤正夫・山口和雄・田中明子・加野直巳・伊藤忍・大滝壽樹・稲崎富士（産総研地球科学情報研究部門）
	P127	関東平野の深層観測井における堆積層の深度-年代モデル	° 林 広樹・笠原敬司（防災科研）・堀内誠示（パリノ・サーヴェイ）
		地震予知—短期・直前予測における学問的課題—	
	P128	ダイラタンシーを考慮した破壊核形成過程のモデル化—直前先行現象の物理機構—	° 芝崎文一郎（建築研）
	P129	産総研・地下水位観測ネットワークによる想定東海地震の前駆すべりの検知能力	° 松本則夫・高橋誠・北川有一・小泉尚嗣（産総研）
	P130	産総研観測網における地殻歪・地下水位データの周波数依存性とノイズレベル	° 北川有一・小泉尚嗣・松本則夫・高橋誠（産総研）
	P131	大気イオン濃度異常と地震予知三要素との関係	° 富士越暁・岡本和人・弘原海清（岡山理科大）
	P132	地中の電界による地震予知とその限界	° 高橋耕三（地震学会会員）・藤縄幸雄（リアルタイム）
	P133	地震の発生に関する理論的考察	° 山本英城（元大阪府公害監視センター）

表 9: 10月8日ポスター

時間	番号	題目	著者

10月	8日	ポスターセッション	
		地殻変動・GPS・重力	
	P134	1993年北海道南西沖地震の地殻変動ーJERS-1データの干渉SAR解析による検出ー	° 矢来博司・飛田幹男（国土地理院）・藤原智（国土交通省）・西村卓也（国土地理院）・伊藤武男（名古屋大学）・吉岡祥一（九州大学）
	P135	1968年十勝沖地震の北側アスペリティ近傍に発生した地震（2001年8月14日，Mw6.4）の余効変動	° 佐藤魂夫（弘前大）・今西和俊（産総研）・加藤尚之（東大地震研）・鷺谷威（名大）
	P136	2002年房総半島沖ゆっくり地震のその後	° 小沢慎三郎・宮崎真一・畑中雄樹・今給黎哲郎・海津優・村上亮（国土地理院）
	P137	CHIKAKU システムを使った神奈川県西部地域における地殻変動シミュレーション	° 丹保俊哉・棚田俊收（神奈川県地研）
	P138	干渉合成開口レーダ法による東海スロースリップイベントに伴う地殻変動の検出の試み	° 小澤拓（日本学術振興会／国土地理院）・矢来博司（国土地理院）・今給黎哲郎（国土地理院）
	P139	相良観測点における歪・傾斜変化の測地測量との比較について	° 中尾 茂（東大地震研）
	P140	歪み集中帯の地殻変動に関する考察	° 井上政明（筑波大）・鷺谷威（名古屋大）・小林洋二（筑波大）
	P141	淡路島800m孔歪計およびGPSで観測された3.5年周期の地殻変動	° 向井厚志（奈良産大）・藤森邦夫（京大院理）
	P142	海水音速構造測定における機器間の差異について	° 奥田隆・矢田和幸・田所敬一・杉本慎吾・高谷和典・安藤雅孝（名大環境学）・久野正博（三重県科学技術振興センター水産研究部）
		地殻構造	
	P143	自己回帰モデルを用いた高分解能の時間一周波数解析に基づく高周波地震波散乱体の新しいパラメータ化	° 平貴昭・蓬田清（北大・理・地球惑星）・桑原保人・今西和俊・伊藤久男（産総研）
	P144	活火山周辺でみられる地震波の振幅異常ー局所的なランダム不均質構造による解釈ー	° 齊藤竜彦（東北大理）
	P145	Numerical investigation of seismic reciprocity in the Japan Trench region using the Earth Simulator	Peyman Poor Moghaddam・° Junzo Kasahara (ERI, Univ. Tokyo)

P146	日本海溝北部域における地殻構造と地震発生	° 伊藤亜妃・藤江剛・三浦誠一・鶴哲郎・高橋成実・仲西理子・尾鼻浩一郎・小平秀一・金田義行 (JAMSTEC)
P147	三陸はるか沖地震アスペリティ近傍での地下構造探査	° 小平秀一・三浦誠一・Smith Alex・佐藤壮・藤江剛・鶴哲郎・伊藤亜妃・高橋成実・末廣潔・金田義行 (JAMSTEC) ・日野亮太 (東北大学) ・笠原順三・望月公廣・金沢敏彦 (東大震研)
P148	日本海溝を横断する多成分反射法地震探査の深度断面	° 南雲昭三郎
P149	東北地方におけるコーダ波エネルギーの異常分布とその解釈	° 吉本和生 (東北大) ・Ulrich WEGLER・Michael KORN (ライプチヒ大)
P150	房総半島縦断稠密地震観測	° 五十嵐俊博・平田直・芹沢正人・小林勝・羽田敏夫・橋本信一・酒井慎一・卜部卓 (東大地震研)
P151	関東地方における三次元減衰構造	° 中村亮一 (東電設計) ・佐竹健治・遠田晋次 (産総研) ・植竹富一 (東京電力) ・神谷眞一郎 (海洋科学技術センター)
P152	反射法地震探査による糸魚川-静岡構造線活断層系南部・中部域の地殻構造	° 阿部信太郎・青柳恭平・宮腰勝義・井上大栄 (電中研)
P153	発破の分散型アレイ観測による糸魚川-静岡構造線活断層系北部の散乱構造(2)	° 桑原保人・今西和俊・儘田豊・伊藤久男・山口和雄・田中明子 (産総研)
P154	Deep Seismic Reflection Profiling across the Northern Fossa magna, reprocessing and geological interpretation.	° エルワイ ドリス (広大理/東大地震研) ・佐藤比呂志・平田直 (東大地震研) ・川崎慎治 (地球科学総研) ・竹下徹 (広大理学研究所)
P155	中部日本におけるフィリピン海プレート形状と地殻・上部マントル三次元地震波速度構造	° 松原誠・小原一成 (防災科研)
P156	跡津川断層系の深部構造の地震学的調査 -クリープ/固着セグメントの断層構造と地震活動特性-	° 藤沢泉・西上欽也・伊藤潔・和田博夫 (京大防災研) ・田所敬一 (名大環境)
P157	人工地震探査データを用いた淡路島北部地域の地殻不均質構造の推定	° 出町知嗣・長谷見晶子 (山形大理) ・岩崎貴哉 (東大地震研)
P158	2000年鳥取県西部地震の震源域におけるレシーバ関数解析	° 上野友岳・澁谷拓郎・伊藤潔 (京大防災研)

P159	2000年鳥取県西部地震震源域の地殻深部反射構造	° 中川茂樹・河村知徳・平田直・佐藤比呂志・蔵下英司 (東大・地震研)
P160	西南日本における三次元減衰構造	° 中村亮一・菅原正晴 (東電設計)
P161	The Kyushu-Palau ridge imaged at the westernmost Nankai subduction zone	° Jin-Oh PARK・Tetsuro TSURU・Takane HORI・Yoshiyuki KANEDA (IFREE/JAMSTEC)・Gregory F. MOORE (Univ. of Hawaii)
P162	沈み込み帯のP波異方性速度構造－九州地方－	° 石瀬素子・小田仁 (岡山大学)
P163	布田川-日奈久断層帯における3次元地震波速度構造(2)	° 是永将宏・清水洋・松本聡(九大・地震火山センター)
P164	海底地震計による対馬海盆中央部の地震波速度構造	° 仲田俊一・佐藤利典・伊勢崎修弘(千葉大)・篠原雅尚・中東和夫・伊東正和(東大地震研)・B. Y. Karp (POI)・C. H. Park (KORDI)
P165	マリアナ島弧-背弧域における地震波構造探査 (2)	° 高橋成実・小平秀一・伊藤亜妃(海洋センター)・塩原肇(東大地震研/海洋センター)・杉岡裕子(海洋センター)・Brian Kerr・Ioan Vlad・Simon Klemperer (スタンフォード大)・金田義行・末広潔(海洋センター)
P166	メトロマニラで観測された明瞭なフェーズについて (その2)	° 前田 直樹・楢木 紀男(関東学院大工)・Esmeralda L. Banganan・Ishmael C. Narag・Bartolome C. Bautista (PHIVOLCS)
P167	屈折および広角反射法データによる東南極みずほ高原の地殻構造	° 吉井弘治・伊藤潔(京大防災研)・金尾政紀(極地研)
P168	アイスレーダー観測による基盤地形のJARE屈折法地震探査結果を用いた誤差評価	° 山下幹也(総合研究大学院大学)・澁谷和雄(国立極地研究所)
P169	能動的な地殻状態常時監視システム (2) 東濃鉾山における弾性波ACROSS連続送信	° 國友孝洋・熊澤峰夫・長尾大道・鶴我佳代子・羽佐田葉子・茂田直孝(東濃地科学センター)
P170	回転型ACROSS送信装置における周波数変調の最適化	° 國友孝洋・熊澤峰夫(東濃地科学センター)
P171	能動的な地殻状態常時監視システム (3) ACROSS稠密地震観測アレイの構築と受信技術の開発	° 鶴我佳代子・國友孝洋・熊澤峰夫・茂田直孝・羽佐田葉子・長尾大道(東濃地科学センター)
P172	能動的な地殻状態常時監視システム (4) 最適重みつきスタッキング法による高SN比ACROSS受信信号の取得	° 長尾大道・中島崇裕・熊澤峰夫・國友孝洋・鶴我佳代子・羽佐田葉子(東濃地科学センター)

P173	能動的な地殻状態常時監視システム (5) ACROSSアレイデータの解析手法の開発	° 羽佐田葉子・熊澤峰夫・鶴我佳代子・國友孝洋・長尾大道・茂田直孝 (東濃地科学センター)
	2003年5月26日宮城県沖の地震、2003年7月26日宮城県北部の地震	
P174	宮城県沖プレート境界の大地震までの東北地方と東北沖における地震活動の統計解析	° 尾形良彦 (統計数理研究所)
P175	バリアー侵食と応力拡散：宮城沖の場合	° 高橋佳奈・瀬野徹三 (東大地震研)
P176	日本海溝前弧域の深部構造と大地震破壊域との関係	° 三浦誠一 (IFREE)・高橋成実 (DSRD)・鶴哲郎・伊藤亜妃・仲西理子・小平秀一・金田義行 (IFREE)
P177	海底地震観測による1978年宮城県沖地震震源域周辺の微小地震活動	° 日野亮太・西野実・桑野亜佐子・伊藤喜宏・山本揚二郎 (東北大理)・山田知朗・中東和夫・金沢敏彦 (東大震研)・伊藤進一 (東北水研)・阿部正雄 (気象庁)・仙台管区気象台海底地震観測グループ
P178	Rupture Process of the May 26 Miyagi-oki Earthquake	° 呉 長江・武尾 実 (東大地震研)
P179	強震動・遠地実体波による2003年5月26日宮城県沖の地震の震源過程	° 引間和人 (応用地質, 東大地震研)・山中佳子・瀨瀬一起・菊地正幸 (東大地震研)
P180	防災科研 Hi-net を使用した震源過程の推定 - 2003年5月26日宮城県沖の地震 (Mj 7.0) への適用 -	° 八木勇治 (建築研)・浅野陽一・伊藤喜宏・汐見勝彦・関根 秀太郎・針生義勝・小原一成 (防災科研)
P181	防災科研Hi-netを使用した余震の応力降下量の推定 -2003年5月26日宮城県沖の地震 (Mj7.0)震源域へ適用一	° 伊藤喜宏・汐見勝彦・関根秀太郎・針生義勝 (防災科研)・八木勇治 (建築研)・浅野陽一・小原一成 (防災科研)
P182	三次元速度構造による2003年5月26日宮城県沖の地震の余震再決定	° 関根秀太郎・松原 誠・針生義勝・小原一成 (防災科研)
P183	2003年5月26日宮城県沖の地震 (M7.0) について	° 岡田知己・長谷川昭 (東北大理)
P184	2003.7.26 宮城県北部の地震と旭山撓曲周辺の地質構造	° 吉岡敏和・石山達也・宮下由香里・堀川晴央 (産総研活断層)
P185	宮城県北部, 旭山丘陵及びその南方沖積平野下の地質構造	° 橋本修一 (東北電力)
P186	2003年7月26日宮城県北部の地震 (M6.2) の震源域周辺における臨	° 浅野陽一・伊藤喜宏・小原一成・関根秀太郎 (防災科研)・八

		時アレイ観測（序報）	木勇治（建築研）
P187		GRiD MTによって決定された宮城県北部の地震のメカニズム解	° 鶴岡弘・川勝均・ト部卓・鷹野澄・山中佳子（東大地震研）
P188		2003/07/26宮城県北部の地震における静的応力変化と余震分布	° 永井悟・平田直（東大地震研）
P189		2003年7月26日宮城県北部地震の初期破壊過程	° 佐藤和彦・James Mori（京大防災研）
P190		測地データの総合解析による宮城県北部の地震(M6.2)の断層モデル	° 西村卓也・今給黎哲郎・矢来博司（国土地理院）・小澤拓（学振・地理院）・村上亮・海津優（国土地理院）
P191		RADARSATデータの干渉SAR解析により検出された宮城県北部の地震に伴う地殻変動	° 矢来博司（国土地理院）・小澤拓（学振／地理院）・西村卓也・今給黎哲郎（国土地理院）
P192		2003年7月26日宮城県北部の地震震源域周辺における重力異常	° 山本明彦（北大・院・理）
P193		2003年5月26日宮城県沖の地震の余震観測記録にもとづくKiK-net小野田地点近傍（加美町）での地震動推定	° 佐藤清隆（電力中央研究所）・佐藤浩章（電力中央研究所）
P194		2003. 5. 26宮城県沖, 2003. 7. 26宮城県北部の地震被害 新幹線橋脚被害, 液状化被害	° 宮地良典・木村克己・植木岳雪（産総研 地球科学情報研究部門）
P195		2003年7月26日宮城県北部の地震の余震観測と宮城県鹿島台町の地盤震動特性	° 古村孝志・小谷明・小林励司・田中康久・アフニマル・坂上実・瀬瀬一起（東大地震研）・中村友紀子（新潟大工）
P196		経験的地盤増幅度と距離減衰式による2003年宮城県北部の地震の震度分布	° 渡辺基史・佐藤俊明（清水建設）
P197		2003年宮城県北部の地震の震源域における地震動の推定	° 宮腰淳一・壇一男・神原浩・渡辺基史・佐藤智美・岡田康男・佐藤俊明（清水建設）
P198		2003年7月26日宮城県北部の地震による旭山撓曲周辺の地盤変状と被害	° 平野信一・松本秀明・村山良之・増田聡（東北大）
P199		2003年7月26日宮城県北部の地震による崩壊地の分布（速報）	° 金幸隆（京都大学・理）・中村洋介（京都大学・理）
P200		2003年7月26日宮城県北部の地震の建物被害速報(2)	° 大田俊一郎（東北大学）・柴山明寛（工学院大学）・平野信一・松本秀明・村山良之・増田聡・佐藤健・源栄正人（東北大学）
P201		アスペリティモデルに基づく広帯域強震動インバージョン	° ネルソン プリード（防災科研・地震防災フロンティア研究セ

			ンター)
	P202	大規模ネットワークによる地震波 伝播のマルチスケールモニタリン グ	° 石原 靖・木下繁夫（横浜市立 大学）・Seismic-Kanto研究グルー プ
	P203	北海道におけるVHF散乱波観測網 構築-二つの地震前に観測された 散乱波-	° 森谷武男・茂木透・高田真秀・ 笠原稔（北大院理）・山田守（名 大院環境）・馬場久紀（東海大総 技研）